（一）　常磐毎日新聞（第一千二百八十六號）　第三種郵便物認可　大正十二年十一月八日

花見のお供に

松本のパン

キ	五錢
ズ	五錢
ワ	五錢
ム	五錢
ン	五錢
ン	五錢
ユ	五錢
ンチ	五錢
ンパン	五錢
一斤	十六錢

マツモトヤ

平町四丁目　電話二一番

花の公園に

長橋

松屋の出店

場所は……第一公園忠魂碑前

お花見の御用命をお待して居ります

開体申込みは特に御相談に應じます

ヒナ人形陳列會

珍形ヒナ人形や

小道具類は……

平町四丁目（電七一二）

スガノヤ提灯店

東昇齊

榮光製　ヒナ人形

特價大賣出し

品豊富　見やすく　賣やすし

平町三丁目　加藤提灯店

神經痛　リウマチス

に惱まる、方の爲に

自宅療法發見……

內用ロイマチ錠　定價（金五十錢）金一圓

賣藥壹圓以上買上ノ方に有聲座・平館無料人場券呈ス

▲太田胃散

仕奉會社

三割引仕候

平町田圃

特約店

宇佐美藥局

藥劑士　宇佐美友二郎

學生帽子　學生カバン　學生洋服

モリヤ

御用命は

お値段と品質で御滿足を得る

平町五丁目三五三番　電話へ

春！櫻！

花が咲いた!!　花に酒!!

松ケ岡の料理　氣持ちの善い食堂

カフエー松ケ岡

二階座敷から一目に公園の花見が出來ます

眼樂亭久月

特製雛人形賣出し

小店員入用

三丁目

金太郎玩具店

大特價

通學用ゴムマント

男子用……1・50ヨリ

女子用……1・60ヨリ

なかや洋服店

御案內

◉お花見は平の松ケ岡公園に

春の御仕度は是非丸龜に

◇春にフサワシイ御仕度には三拍子揃つた優美丈夫經濟な!!

龜のセールを御使ひ召せ

中野呉服店

平町三丁目（電話六十七番）

大賣出

京都齊

廉賣　ヒナ人形

小道具一式

玩具行商人數名募集

いづや

二丁目（電六四九）

學生カバン卸し賣り

最特品五拾錢ヨリ

一個でも卸賣致します

玩具、文具、書籍、糸類問屋

森下商店

平町一丁目

まめや號

春衣新柄特製品宣傳賣出し

◆お花見手拭　別染　一本　金八錢

◆お花見足袋　黑朱子　金參拾錢

白キャラコ　金貳拾錢

新館階上階下には**あらゆる**春の新柄と京人形が陳列されて居りますから何卒御覽下さい

三井呉服店

平町　電話（三十八番）（七百五十一番）

水光齊　祐月製

ヒナ人形小道具一式

特價大賣出し

平町二丁目

陳野洋品店

新らしき嗜好に

最も適する……

皆樣の爲めに

『食べる人の心になりて』

理想的お食事の出來る

高級なる

パン洋生菓子

珍味ある

商標

遠藤のパン

平驛前（電話七四六番）

美味評判イワキ食堂

平町紺屋町（縣社通り）

オの部電話四六〇番

勞資持ち寄りて 相互の理解が第一

メーデーに就て某氏語る

目途に迫つたメーデーに對し多數の勞働者を抱擁する平警察署では昨今寄々當日の對策に就いて攻究中の旨昨報の通りであるが仄聞する處によれば磐城炭礦邊では既に一種のブラック、リストを作成し當日示威行列等の指揮者側に對しては何等かの名目の下に解職を斷行する意圖を有するものの加く傳へられてゐる石城炭礦界におけるメーデーが當日果して如何なる程度において行はれるかは全く不明の問題ではあるがこの際に處する勞働者の敎養に就いて某職者は次ぎの如く語る

大正九年に第一回の祝祭を行つた我國のメーデーは深き內省と自覺とにより年と共に秩序ある訓練を經て團体行動の整調に近づきつゝある、八八六年米國の全勞働團体か初めて行つた際のスローガンは『八時間の勞働八時間の休息八時間の敎育』であつた我國第一回のメーデーは可決された宣言は既にメーデーが萬國勞働者の國際的同胞主義に迄進んで來た折柄のことゝて八時間主義の單一目的を超つ勞働者の自覺訓練團結を表現し勞働階級の解放と萬人の自由を絶叫したのであつた、元來勞働者と云はずわが國大衆の遺憾事は敎育と訓練との不足である、徒に外國の勞働者や學者の言ひ分をそのまゝ無條件に受け入る事のみで自分の國を考へず自分足元を見ず、獨りに感情のみに導かれて時として猛進猪突無用の勞費を重ぬるのみで結局當初の目的を達成しないばかりか時として は遙かに不利な位置に逆轉せしめられる樣なことを繰り返すのである、この事は必ずしも勞働に限らぬ向ふみずの資本家の勞働者に對するときた同一の失策を平氣でやつてゐるのであるそれで我等は勞資双方に對しても う少し彼を知り己を知つて而して後動くことを望む云々

春季素謠會

平觀世會にては來る廿九日午前九時より谷口樓に於て野島、古川、鳥越の諸師を招き春季素謠會を開く筈にて會費一圓であると

梨の害虫を退治

試驗場技師出張

石城郡地方の果樹園藝副業として最も多額の收益を擧げてゐる梨果栽培は益々發達を示して前年中の總額は二十四萬二千百六十五貫金額七萬圓に上りその主とする生產地は平窪村、赤井、小川、內郷等で梨樹の手入等も年々理想的に行はれてゐるが梨樹栽培者に取りて最も脅威とする椿象虫の豫防驅除には未だ徹底的對策が講ぜられず毎年尠からざる被害を蒙つてゐるのでこれが撲滅を圖るべく縣立農事試驗場病害虫驅除主任伊藤孝三郎技師は十八日平窪村へ出張目下繁殖中の椿象虫驅除據防の實地試驗を行つた

靴墨の良否

靴墨の良否を簡單に見分ける方法を御傳授しませう。申す迄もなく靴に水がしみこむことは大敵であります、靴墨をぬつて磨いた靴に水をかけた場合、水が玉をなして落ち浸みこまぬものでなくてはならないのです。また蜜蠟などは皮の質をやはらげてよい結果を與へますが、たゞ粘著性をもつてゐるため、ホコリが付著すると布ではたいた位では放蕩からアルコール中毒にかゝり精神に異狀を呈し監視中去る一月末行衛を晦ましたので捜索中十六日午後同部草野村夏井川岸に腐爛死体となつてゐたのを發見したが同塲所は竹籔とて三ケ月も發見されずにゐたものであると

春雨降り注ぐ中に 金馬廉の光サンたり

けふ廿二ケ町村の消防 晴れの聯合檢閲

平町管內二十二ケ町村四千に達する消防組員の春季聯合檢閲は今二十日午前八時から平町八幡小路奮磐中グラウンドで擧行された早朝到着順により平署前から四丁目附近まで整列坂田警務課長檢閲を終し式塲に繰り込み各町村毎に點檢をした上消防功勞者百三十餘名を表彰午後三時散會したが折柄の春雨をものともせず消防手連思ひ〳〵松ケ岡公園に觀櫻の宴を開き終日賑はつた因に當日の主もなる表彰は左記の如くである

◇表彰狀

平消防組伍長　涌井　肇　作

消防組員拜命以外熱心職務に盡粹し殊に昭和三年一月十二日平町十五丁目火災に際し自家危險を顧みず終始一貫現塲に止り防火に努め其職責を果したる功勞顯著にして一般の龜鑑たり仍て玆に之を表章す

◇表彰狀

澤渡消防組

組員其同一致し紀律の確守に努め大正十四年以降昭和二年度に至る三ケ年間聯合消防檢閲に際し出塲一着を示せり仍て玆に之を表彰す

石城郡聯合消防協會

會長　猪狩　清

平組十年以上勤續消防手鈴木藤一、中山壽一、保坂龜八郎、大野松之助小菅金平、阿部菊造、馬場勝之助

江名濱の漁港落成式

來月九日擧行

石城郡江名漁港は工費三十餘萬圓を投じ工事中のところ完成し町民多年の熱望いよ〳〵達し今後一層漁業の發展を豫想されてゐたが五月九日午前十時から同港埋立地で盛大な落成式を擧行する筈となつたので町役場漁業組合で目下準備中である

アル中が 腐爛屍体に

川岸で發見

石城郡神谷村鈴木春松（二九）

他人の獵銃を 持ち逃げ男

石城郡山田村大字下山田佐川源太郎（三五）は十八日平獵友會の射擊大會塲にて射擊の模樣を見物して居たが同部湯本町四位幸太郎所有の獵銃一挺（代金二百六十圓）を窃取逃走し午後七時半頃平驛て平署刑事に逮捕さるでは光澤の出ぬ缺點がありますが、即ちホコリが付著せず光澤がよいことも必要條件でありますが、靴の皮を長く保存するだけの目的からは光澤の良否は問題となりません。なほあまりやはらか過ぎる靴墨は揮發分が多く從つて有効成分が少量であることを意味します

チフスの話（一）

チフスの流行と その損害

日本は既に世界一流の文明國の中に數へられては居るが、他の文明國に比べて傳染病の多いのは遺憾である殊にチフスは日本の名物とも云ふ可く、世界文明國中第一等の位置を占めて居るチフスには腸チフスとパラチフスとがあるが、傳染の經路も豫防の方法も大體相似てゐるからこゝには引括めてチフスとして述べる

◇チフスは野蠻病

文明の進まぬうちは何處の國にもチフスが多かつた、獨逸のやうな醫學の進歩の盛んな國でもチフスの流行に苦められた時代があつてチフスが流行するのは政治が悪いからだと絶叫した醫學者もある位だ、然し世の中が進むで防疫の施設が完滿した結果文明國ではチフスが漸次少くなつた殊に、衛生施設の最も行き屆いた都市ではチフスが著しく少なく、西洋の都市ではチフス患者がなくて醫學生の敎育に差支ることさへある位である。米國ではチフス死亡者の割合を都市の文化程度を比較する尺度として居る、此の指尺で測られると日本の文明は夥しく價値を墜すことになる。

◇文明國とチフス

大正十二年（西曆一九二三年）にチフスで死んだ者が倫敦市中で僅に三十九名、伯林では三十七名に過ぎないのに、東京では八百三人も死んで居る、西洋の大都市と日本の大都市のチフスを較べて見ると次のやうな著しい相違がある

人口十萬に付チフスで死ぬ數

ロンドン	〇・九
ベルリン	〇・九
シカゴ	二・〇
ニューヨーク	二・四
パリ	六・七
東京	三五・四
京都	六四・六
大阪	二五・六
神戸	二四・〇
名古屋	二五・三

若し以上の數字を亞米利加人に見せれば、京都は倫敦より六十八倍餘野蠻だと言ふかも知れぬ。

◇日本の現況

日本には チフスが多い、それ位患者數があるかと云へば、大正十四年中に届け出された總數は五萬八百四十三人に上り、其の中死亡した者が九千五百四十人である。即ち患者の約五分の一死ぬのである、全國を平均して見ると人口十萬に對して八十五人餘の患者があり約十六人の死亡者がある割合である。東京市だけで云へば人口十萬に對し患者は百六十一人以上に當り、死亡は約三十三人六分となる斯く都市と地方とを問はずチフスが流行し又上流下流の區別なくチフスに懼る、日本の住民は誰でもいつ何時チフスに取りつかれるかも知れない。斯樣な不安の裡に其の日其の日を暮らして居ると云ふ有樣である

卅週年の祝賀

平町白銀町吉田新聞店は新聞取次を開業以來卅週年に相當する爲め廿一日午後四時より住吉屋本店に記念祝賀の宴を張ると